



FC岐阜

株式会社岐阜フットボールクラブ

代表取締役社長 宮田博之 氏

橋本和選手、川西翔太選手のご紹介



写真：©Kaz Photography/FC GIFU

背番号：10

川西翔太 選手 MF

ガンバ大阪3年、モンテディオ山形3年、大分トリニータ2年の経験の後、現在FC岐阜で中盤ながら6得点3アシストと活躍を見せてくれています。

今年はもっと得点を取ってJ2昇格を実現したいと決意

しています。「FC岐阜にはうまい選手が多く、十分な気遣いと執念をもてばJ2のみならずJ1を狙っていける」と話します。

自身の好調の要因は持久力とフィジカルの強さであり、持ち前の能力とチーム練習の成果であり、攻めだけでなく守備にも貢献しています。

それらを支えているのは優しい奥様とかわいい7歳のポメラニアンと6歳のチワワとの温かい家庭のお蔭。更には大変住みやすい岐阜の環境と今年はコロナで十分な交流が持てないが温かいファン・サポーターの応援もあり、公私共に充実しています。

岐阜も山形や大分以上に温泉で有名ですが、岐阜ではまだ行けていないとのこと。昨年末は奥飛騨温泉郷に行こうとしたが予約が取れず、今年こそはと念願しています。

また、ホームタウン応援大使でもある白川村にも是非訪問して良さを広める貢献を実現したいとのこと。

好きな言葉は「笑顔」で、「どんなに苦しい時も最後に笑顔で笑えるように頑張っています。

今年はFC岐阜の皆さんとの笑顔で笑い、次なる笑顔にICHIGANでチャレンジしたい！」と強く願っています。



写真：©Kaz Photography/FC GIFU

背番号：2

橋本和 選手 DF

今シーズン3得点2アシストと好調を維持している、左サイドのスペシャリストです。サッカーの名門青森山田高校、大阪体育大学出身で川西選手の2年先輩に当たり、厳しいが優しい先輩だったと川西選手の弁。

滋賀県長浜市出身で、岐阜には中学校時代に岐阜VAMOSと練習試合をするなど、岐阜は身近な地域でした。現在、関市のホームタウン応援大使であり、コロナが鎮まれば小瀬鵜飼や洞戸ヤナなど家族で行って、大勢の皆さんに広める役割ができればと思っています。

奥様は、なでしこリーグの岡山湯郷Belleでフォワードとして活躍されていました。6歳の長女と3歳の長男と4人家族で、新型コロナウイルスの影響で気軽に歩けませんが、快適に岐阜ライフを過ごしています。奥様は岐阜に女子チームが出来れば、いつか指導できるのを楽しみにしているそうで、子育ての時期が終わればスクールで女子を教える日が来るのも近いかもしれません。

好きな言葉は「夢は大きく」でJリーガーとしていつまでもタイトルの取れる現役選手として活躍したいと願っています。「FC岐阜の今のチームは雰囲気やコミュニケーションも良く、個人やチームレベルでの戦略や具体的戦術の落とし込みが確り出来ているので、J2昇格は実現できると確信しています。」ファン・サポーターの皆様への絶大な応援をよろしく願います。